

情報連絡員報告総括表（令和5年9月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況			
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化	
製 造 業	食料品	1	3			4			4		1	3		1	3			4			4			4		1	3		
	繊維工業		2	1		3		2	1			3			3			3		1	2			2	1		2	1	
	木材・木製品			1			1		1			1				1		1				1		1				1	
	紙・紙加工品			2	1		1		2			2			1	1		2				2		2				2	
	印刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1		
	化学・ゴム																												
	窯業・土石製品		2	1		3			3			3			2	1		3			3			3			2	1	
	鉄鋼・金属			1		1			1			1				1		1			1			1			1		
	一般機器	1	2		1	1	1	3			1	2		1	2			3			3		1	2			3		
	電気機器			1			1			1		1				1			1			1		1				1	
輸送機器	1			1			1			1			1			1				1				1			1		
その他																													
	小計	3	10	7	3	13	4	6	13	1	3	17		3	12	5	1	18	1	1	15	4	1	17	2	1	12	7	
非 製 造 業	卸売業		2			2		1	1			2			1	1		2		X		2			2			1	1
	小売業	3	2	1		5	1	4	2			4	2		4	2		4	2			6			1	3	2		
	商店街	1			1			1				1			1			1				1			1				
	サービス業		3	1	X	X	X		4			4			3	1		3	1			3	1		3	1		3	1
	建設業	1	2	1					2	1	1	1	1	2	1	1	2	1	3				4			1	2	1	
	運輸業		1							1		1			1			1					1		1				1
	その他		1	1						2		2			2			2				2			2			2	
	小計	5	11	4	1	7	1	8	11	1	1	14	5	1	13	6	1	15	4		19	1	3	11	6				
	合計	8	21	11	4	20	5	14	24	2	4	31	5	4	25	11	2	33	5	1	15	4	1	36	3	4	23	13	

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和4年9月～令和5年9月)

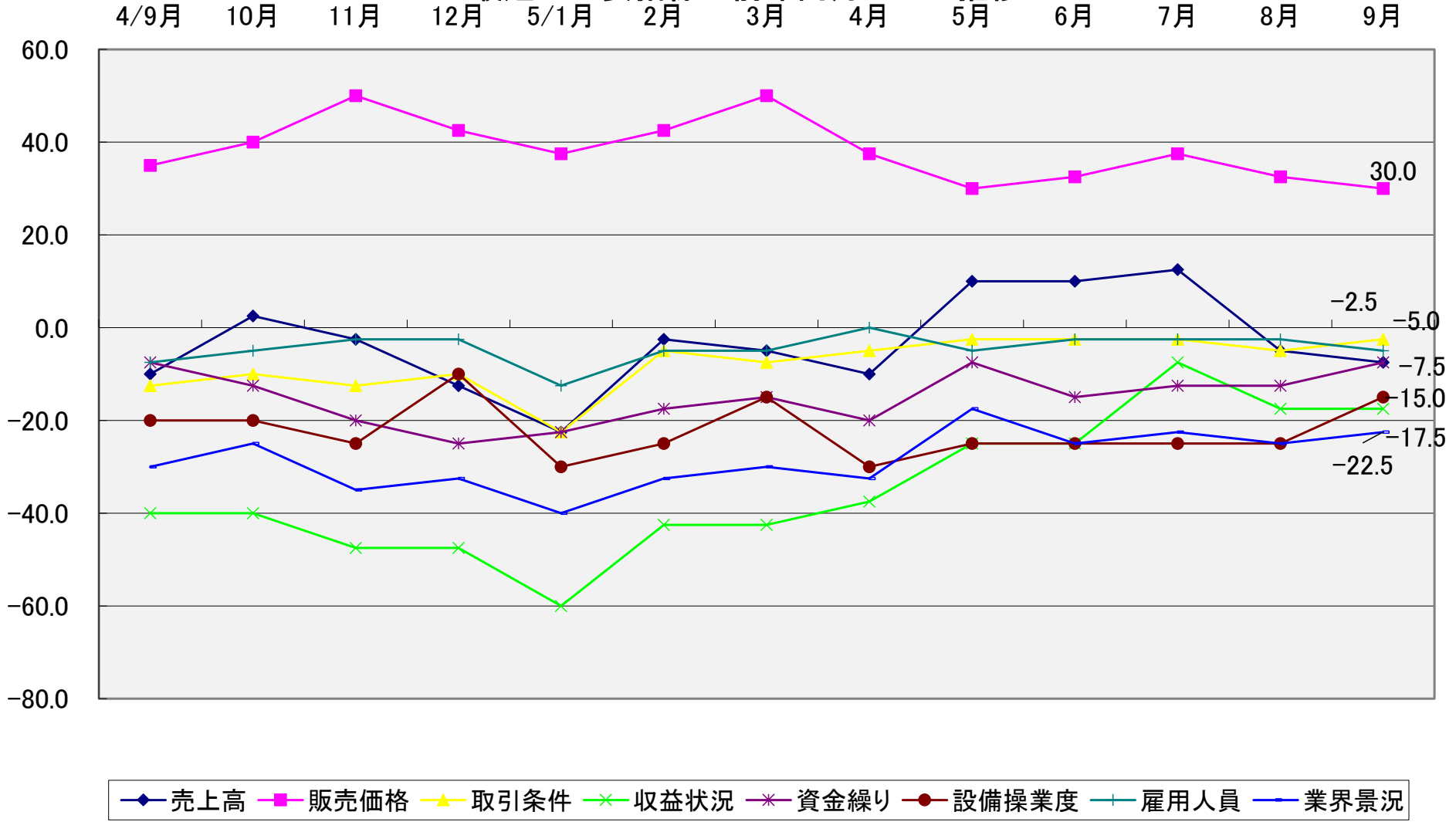
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	4/9月	10月	11月	12月	5/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	増減
売上高	-10.0	2.5	-2.5	-12.5	-22.5	-2.5	-5.0	-10.0	10.0	10.0	12.5	-5.0	-7.5	-2.5
販売価格	35.0	40.0	50.0	42.5	37.5	42.5	50.0	37.5	30.0	32.5	37.5	32.5	30.0	-2.5
取引条件	-12.5	-10.0	-12.5	-10.0	-22.5	-5.0	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-2.5	2.5
収益状況	-40.0	-40.0	-47.5	-47.5	-60.0	-42.5	-42.5	-37.5	-25.0	-25.0	-7.5	-17.5	-17.5	0.0
資金繰り	-7.5	-12.5	-20.0	-25.0	-22.5	-17.5	-15.0	-20.0	-7.5	-15.0	-12.5	-12.5	-7.5	5.0
設備操業度	-20.0	-20.0	-25.0	-10.0	-30.0	-25.0	-15.0	-30.0	-25.0	-25.0	-25.0	-25.0	-15.0	10.0
雇用人員	-7.5	-5.0	-2.5	-2.5	-12.5	-5.0	-5.0	0.0	-5.0	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-2.5
業界景況	-30.0	-25.0	-35.0	-32.5	-40.0	-32.5	-30.0	-32.5	-17.5	-25.0	-22.5	-25.0	-22.5	2.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年9月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化と後継者不足により、一部業者の中では漬物原料野菜の供給不足が続いている。また販売状況においても、コロナウイルス規制の緩和に伴う、旅行者の増加等により、お土産物の需要がかなり回復してきており、コロナ前の状況に戻ってきている。一方で、ウクライナ戦争の影響及び円安による諸資材の高騰により、製造コストに影響が出おり、特に電気代が約50%値上がりしているが、その分を価格に上乗せする訳にもいかず、経営を圧迫している。 また、9月20日に鈴鹿市で中央会主催のインボイス制度の講習会を開催した。オンラインでの参加もあった。更に組合員の情報交換会を10月中にオンラインで予定している。
	醤油味噌	国内は猛暑の影響で米の作柄が良くない。大豆も花の開花に影響が出ており作柄が気懸りである。輸入小麦の10月からの政府売渡し価格は5銘柄平均で11%の値下がりとなった。円安が進み原料、燃料の再値上げがありそうで、醤油業界も10月から3回目の値上げを実施。組合員の状況は、一部の組合員で補助金を活用し新しい設備の導入を行い生産の効率化、生産量の拡大を目指している。また、9月に2組合員で特別販売会のイベントを実施し、地元のお客さんで盛況に終わることができた。
	他に分類されない食料品 製造業	働き方改革、それに伴う賃金アップ等、経営者の考え方も随分前向きになってきていると思う。 支援もいろんな分野で利用できそうで、設備投資も考えに入れて古い機械や設備を見直そうと思う。
	製麺	9月30日、10月1日に秋田県稲庭地方で「全国まるごとうどんEXPO」に参加してきた。うどんの選りすぐりの13出展社と交流もできた。今回は稲川地区（稲庭うどんの発祥地）で開催された3万人の方々が昨年以上に参加されて盛り上がった。今後も全国の方々と交流を深めて取組んでいく。伊勢うどんを今後も盛り上げていくので、ご支援、ご指導をお願いします。
木材・木製品	木材	燃料費、輸送費の高騰が依然として経営に影響している。
紙・紙加工品	木材チップ	原材料価格が高止まりしているため、原料確保が課題である。
	古紙	9月の仕入量：段ボール・約90±4%、新聞、チラシ・約88±4%、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約89±5%と思う。史上空前の税収との事であるが、庶民の所得税や中小零細企業の税収がどの程度増えているのかわからない。一般的な消費行動へ繋がらず、紙の消費や生産は、マイナスのようである。10月からの最低賃金上昇は良い事であるが、中小零細企業の入札額や売上・粗利等の増加になっているとは聞こえてこないし、先行き明るい気の有る会社等も目立たないようにしているのだろうか。一般社会に財布のひもが緩むような景気感はないように見受けられる。20~30年ほど前の円安水準で15円安くなっても古紙の輸出価格はほぼ国内と変わらない価格対応が合点がいかない。製紙会社の古紙在庫は、現在も一杯で発注量もマイナス約10%位で推移しつつも古紙在庫は少しずつ増加する状況です。燃料費の負担がほぼ倍近くで車検整備代・部品代の値上げのため運賃値上げもしていただいたが、市況等との事で段ボール古紙の値下げや発生発注量減により、手痛いマイナス経営となっている。10月以降に最低賃金が40円以上上昇することで消費上昇となれば良いが。ゴミ等の置き去りや古紙や古着の持ち去りの行為も多発し、より経営者に優しいより美しいマナーの良い社会づくりの前に色々ダウンしそうである。
印刷	印刷	9月期においては、低調ながら夏場の閑散期と比べると動き始めているが、コロナ前の水準にはほど遠い。
窯業・土石製品	伊賀焼	注文数等、緩やかに各組合員ともに増えているようである。しかし、生産数等に手が回らない状況になりつつある。10月から始まるインボイスに対応する不安も耳にする。
鉄鋼・金属	鍍金	業界の生産額は、前月と比べあまり変わらず伸び悩んでいる。当業界はメーカーの現在の業況から少し遅れて影響が及ぶ業界であるため、受注は総じて振るわない状況であり、年内まではこのような状態が続くと思われる。
一般機器	四日市市	各企業により濃淡があるが需要、業績は停滞気味である。これまでの半導体不足や紛争の影響の他に急激な円安、あらゆる物価の上昇も響いている。販売価格が上昇できても経費の転嫁のみで人件費上昇分を反映させるのが難しいことと、給与アップでも人が集められない影響もみられる。2024年には景気が上向く予想であるので工業製品の需要増、設備投資につながっていくことを期待したいが、現時点で状況は変わっていない模様である。
	津市	先月の受注が少なかったせいか、その反動でこの9月は受注も活発になってきた。昨年は半導体不足による影響があったため、昨年と比べると受注は高いが、コロナ前に比べたら、ようやく戻ってきた感じはする。ただし、この1ヶ月間に対する評価のため、しばらくは受注動向を確認しながら生産の増減には対応していきたい。

製
造
業

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年9月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等（景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点）
	伊勢市	相変わらず製造業は低調で特に自動車関連の業績が良くない。中には2008～2009年リーマンショック並みに受注が減少している組合員もある。コロナ時にモノ不足解消のため、予想以上につくり過ぎたことから現在部品が余ってしまい、在庫調整をしているところもある。下期もあまり良い話はなく、少なくとも来年3月末まではこの状態が続くと予想される。
	電気機器 鳥羽市	受発注の状況は30～40%ダウンが続き、非常に苦しくなっている。なかなか改善が見られない。
	輸送機器 伊勢市	大手との取引において、動力費値上がりに対する値上げを対応してもらっていた取引先から、最近の電力料金低下に対応して、値下げ要請に変化している。
非製造業	青果	野菜前半：夏場の異常な高温や干ばつの影響で入荷が不安定な品目が多い中、北海道産のかぼちゃが例年より2週間程早く収穫時期を迎え、お値打ち状態が続くようである。また、じゃがいも、玉ねぎもお買い得である。長野県、群馬県産のキャベツも安い。大根、人参、きゅうり、ブロッコリー、ほうれん草は高い。 野菜後半：高値が続くが北海道産のじゃがいも、玉ねぎは出荷が最盛期で安定して入荷している。なすは愛知県産、徳島県産が順調に入荷し、価格も安くなってきた。長野県産のキャベツ、白菜、レタスもお買い得である。 果物前半：長野県産の梨の秋月、豊水は味も良く値ごろ感がある。長野県産のシャインマスカットは露地物が増え、安定して入荷している。和歌山県産の柿、熊本県の栗の入荷も始まる。 果物後半：秋の果物が出回り、特に県内産のおおぎりみかんは極むせ品種で味も良く、価格も平年並みである。長野県産の人気のシャインマスカットは安定して入荷しているが、月末頃にはピークが過ぎ、やや値上がりしている。長野県産の梨も終盤になり、季節の変わり目で全体的に入荷が少なくなってきた。
	自転車	学校は2学期に入り、街に行くくと学生が目立ち始めた。しかし、残暑は続き商品の動きは鈍く先月同様である。組合活動として21日からの「秋の全国交通安全運動」の取組みとして、自転車街頭点検、交通安全啓発キャンペーンに参加した。かなり使い続けた自転車も多く感じる中、物価上昇を巡る政府の対応に不満との声が多く聞こえ、景気悪化が高水準で続きそうで、「余裕がないので新しい自転車に買い換えることが出来ない」これがユーザーの今の声である。7月に政府が認可した免許のいらぬ時速20km以下の電動キックボード及びEVバイクに関する研修会を10月に開く予定である。
	小売業 電器	9月に入っても暑さは続く状況で、家庭用のエアコンは故障や経年劣化等で買い替え需要が続いていたと思われる。家電全体の販売状況としては、売上としては前年の105%から110%あたりの比較になるが、価格高騰を考慮すると横ばいという考え方にもなるように思う。部品が入手困難で製品が回ってこない、新型が発売されても値上がりでお客様に提案しにくい等の意見もあった。
	石油	既知の通り2023年6月以降、政府は原油価格高騰対策として行っている「燃料油価格激変緩和対策事業について、9月末の補助事業終了に向けて本格的に補助額を縮小させてきたが、8月30日の岸田総理の会見において、本補助事業は本年12月31日まで延長することが表明された。9月7日より補助額は一転増加するため、元売り等の卸価格は値下がりする。原油価格や為替等の変動如何にもよるが、現状の水準であれば、9月中は8月末分（8/31～9/6適用）の補助額に比べ5円程度、10月以降は更に9月末分（9/28～10/4適用）に比較して5円程度それぞれ補助額が増えと見込まれる。このことを踏まえ、岸田総理は「10月中旬に資源エネルギー庁調べの全国平均小売価格を175円程度まで抑制させることを目指す」と表明している。しかしながら、我々の小売価格は輸送コストの違いなどから地域差が生じるため、全国一律の価格にはならないこと、また、高額な補助金が出されている状況で制度を終了すると大きな価格差が生じ、消費者の駆け込み需要などにより流通価格が混乱する恐れがある。ソフトランディングの出口戦力の策定を期待する。
	スポーツ	前月の連絡票にも書いたが、今まさにアジア大会、ラグビーワールドカップ、バレー大会等々各種目で世界的な大会が行われている。メディアに取り上げてもらうとやはり気運が高まるのか、お客様の来店が増えているように見える。コロナも収まって来たようであり、秋のスポーツ大会が各地で賑わうことと思う。大きく売上に寄与してくれればと思っている。
商店街	熊野市	訪日観光客がこの地方にも多く見受けられるようになり、観光に携わる店舗等はそれなりの需要があるようで、全体的には回復傾向にある。ただ物価の上昇は止まらない状況のため、仕入れ価格も上昇が続いており、経常利益に圧迫が見られる。
サービス業	旅館	9月の3連休はどれも賑わっていたようであるが、9月全体では低調であった。インパウンドも中国以外の国は少々戻ってきているようであるが、まだまだコロナ前には及ばないのが現状である。対前年比110～120%、コロナ前の2019年同月比は60～70%程度のものであった。
	警備	受注に対して警備員不足である。

報告者名
報告年月

三重県中小企業団体中央会
令和5年9月

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
建設業	総合工事業	令和5年4月から8月までの県内建設企業の受注高は、対前年度比0.9%の増であった。しかしながら、国発注工事については、対前年度比12.1%の減となっており、国発注工事を中心に受注している建設企業が県発注工事の受注企業となっている。
	内装工事業	9月も8月同様、対前年同月比で増加となった。 10月1日からインボイス制度が始まり、業界内は個人事業主が多いので導入による作業の複雑化が懸念される。
	水道工事業 (亀山市)	亀山市の委託業務も上半期が終了した。前年比では減少傾向ではあるが、仕事量が減少しているため、委託金額も減少となっている。各組合員の仕事量も民間の受注は増えているようであるが、資材単価の高騰が続き、収益を圧迫している状況である。下半期の委託業務は平年並みに推移すると思われるが、民間工事については、資材の上昇が安定しないと年末に向けて不安な状況が続くと思われる。
運輸業	トラック	軽油価格は政府による石油元売りに対する補助金が段階的に引き下げられたことから、15年ぶりの高水準となり運送事業者の経営は非常に厳しくなっている。電子デバイス部門は先月は増加に転じたものの、今月に入ってから減少傾向にあり関連する輸送も減少した。自動車部門はホンダ技研、トヨタ自動車とも前年比を大きく上回り、関連する輸送も大きく伸びた。スーパー小売部門についても、先月に引き続き伸びたことから関連する輸送も増加した。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	他に分類されない食料品 製造業	情報連絡員会議の講話「DXの取組みについて」は大変刺激になった。
食料品	製麺	情報連絡員会議をありがとうございました。引き続きよろしく願いいたします。 新しい助成金等があれば教えてほしい。
一般機器	四日市市	工業製品の需要の停滞は2023年内は続く見込み、2024年に回復傾向となったとしても、物価の上昇や人手不足が問題になるはず。きめ細やかな支援をお願いしたい。
小売業	スポーツ	インボイス制度が始まった。組合員はそつなくクリアしてくれると思う。
サービス業	旅館	夏休みに次いで、高稼働の秋シーズンを控え春以来稼働率が全国平均を下回っている。三重県においては早急に需要喚起策を実施してもらいたい。(全国23都道府県では、既に実施している。)